

金沢漆器

歴史

加賀蒔絵として有名な金沢漆器は、1630年頃、加賀藩3代藩主前田利常が美術工芸の振興に力を入れ、桃山文化を代表する高台寺蒔絵の巨匠五十嵐道甫を細工所の指導者として招き、技法を伝えたことが始まりである。以後、五十嵐家一門は、歴代藩主に仕えるとともに技術を受け継いできた。また、道甫の門人といわれる清水九兵衛や印籠



蒔絵の名工椎原市太夫が江戸から招かれ、加賀蒔絵の基礎をつくった。このように、王朝文化からの伝統を受け継ぎ、藩によって育成された金沢漆器は優美な貴族文化に武家文化が加わった特有のものである。

特色

室内調度品、茶道具などの一品制作が特徴である。指物、挽物、曲物などで造った木地素材に、下塗だけでも布着せ、漆下地など数十工程を経る本堅地塗である。上塗は無地呂色[ろいろ]磨きや花塗仕上げが主で、塗立てや金沢独特の紗の目塗など高雅な変わり塗がある。

蒔絵は平時絵・高蒔絵・研出蒔絵・肉合研出蒔絵など高度な熟練を要する繊細な技法を用い、これに螺鈿[らでん]・平文[ひょうもん]・卵殻[らんかく]などの技法も使われ加飾効果を高めている。



金沢漆器

历史和特色

金泽漆器的历史是始于1630年左右，加贺藩主前田利常致力于振兴美术工艺，招揽了泥金画技术的巨匠。后来，其弟子们将优雅的贵族文化和武士文化相结合，发展成金泽漆器。

金泽漆器用于家具、茶具等。漆器的完成是要经过数十次涂漆的工序而成。“蜡色磨”(上光)和花涂(不上光)外，还有“纱目”(布纹式花纹)都是金泽漆器的代表性技术。使用平泥金画、高泥金画(浮雕图案)、螺鈿(镶嵌贝壳)、平纹(使用细金属箔的装饰)、卵壳(使用卵壳的装饰)等各种技法，提高加饰效果。

情報 资讯

主な生産地(主要产地)	金沢市(金泽市)
主な製品名(主要产品名)	茶道具、調度品(茶具、家具)
主な生産者(主要生产者)	金沢漆器商工業協同組合(金泽漆器商工业协同组合) 〒920-0918 金沢市尾山町9-13(金泽市尾山町9-13) TEL (076)263-1157 FAX (076)263-1158